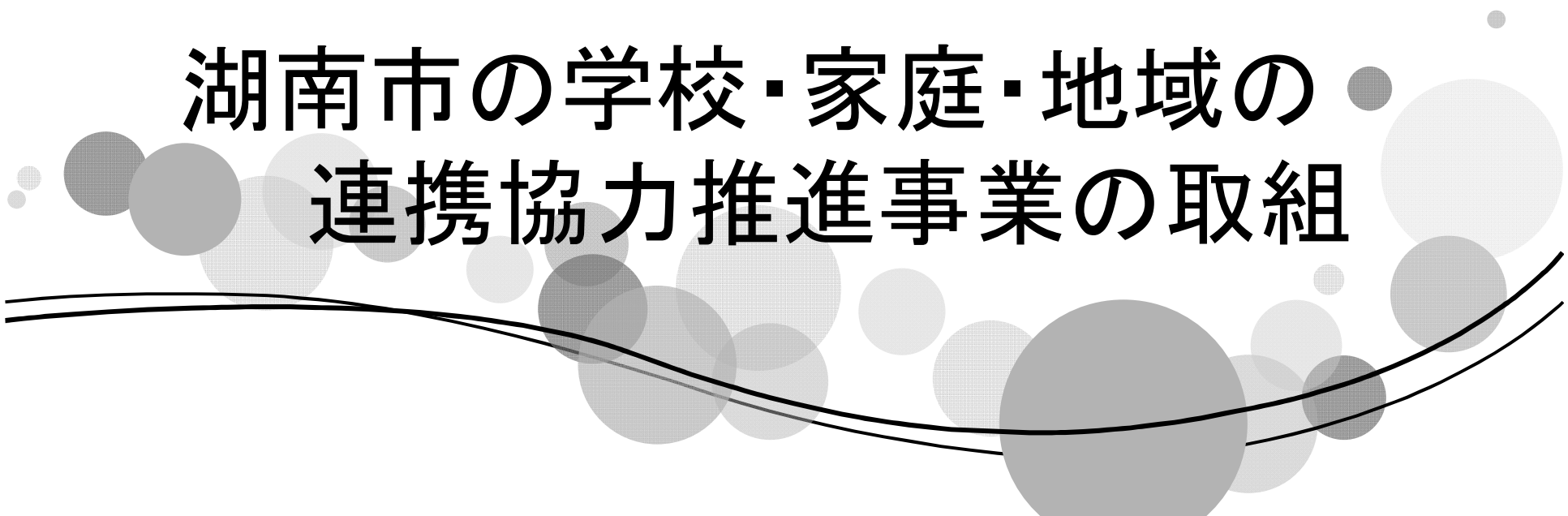




湖南省の学校・家庭・地域の 連携協力推進事業の取組

放課後子ども教室の取組の事例などから

湖南省教育委員会 学校教育課 教育研究所
所長 伊藤 照男

目次



1. 湖南省教育方針の構造図から
2. 地域と共に子どもを育てる湖南省ビジョン
3. 県下初CS校 岩根小のCS放課後教室
4. 湖南省中学校の放課後子ども教室
5. 湖南省のコミュニティ・スクールや、学校支援
地域本部事業のめざす姿

楽しくて力のつく湖南省教育

～子どもの夢を育て、「生きる力の根っこ」を太くする～

子どもが
「キャスト」

子どもが「自覚」する

子どもは
「スタッフ」

自尊心感情

学力保障

仲間づくり

ふるさと意識

鍛える学校文化

群れる力

学力向上プロジェクト

授業改善

学習集団づくり
特別支援教育

読書の
推進活動

家庭学習
の充実

こころの教育

学校には
「つなぐ」役割

地域との協働

コミュニティ・スクール

土曜日事業

学校は地域へ、地域は学校へ

学校支援地域本部事業

放課後教室

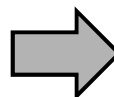
いのち・人権

地域と共に子どもを育てる湖南省ビジョン

- 小学校はコミュニティ・スクールへ、
中学校は学校支援地域本部の設置へ【当面の目標】
- コミュニティ・スクールへは、市全体で移行するのではなく、各学校
支援地域本部での論議を尊重する
＊ 理事会組織の設置、子ども育ての課題共有が必要
- 各中学校区において、小・中
連携、小・小連携を工夫しながら
推進する
- 学校を核として住む人々が集い、と
もに活動していく中で、互いに自立し
助け合い、よりよく成長していくため
の「地域コミュニティ」を活性化して
いく

ボランティアが育つ3つのステップ

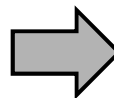
①子どもの笑顔から勇気をもらう
(関わる)



子どもの声を心で受け止める
(繋がる)

◇顔見知りになり、子どもと学校を身近に感じる。安心感と自信を与える

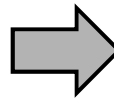
②仲間と子どもを育てる「熟議」ができる(課題の明確化：企画)



仲間と子どもと向き合う取組ができる(実行)

◇子どものよさや課題を共有 子どもをお客さん扱いにしない構えで向き合う

③仲間とのコミュニティの向上が自覚できる(評価)



高め合う仲間集団の確立
(次へのアクション)

◇CSや学校支援地域本部で「子どもを育てる視点」を共有～取組を積み上げる

岩根小のCS放課後教室（子どもと保護者の願いを実現）

◇校区：細長く遠距離 ⇒ 帰宅後では一緒に遊べない

＊子ども同士のつながりを失わせない

＊低学年の**子ども同士の仲間づくり**

2年・3年→2年・3年・1年（秋から） 年15回

◇学年下校→15時頃 校地内コミュニティ・ハウスへ

①宿題(家庭学習)支援 →(自由遊び)

②キッズサッカー(運動場または体育館)



◇放課後教室終了 17時頃、保護者の迎えで帰宅

※学校、地域コーディネーター、学童保育所「はねっこ」との連携

宿題(家庭学習)支援 校地内CSハウス



地域のボランティア3名

最後までやりきれるように

進み具合に寄り添いながら



キッズサッカー支援 岩根小運動場、体育館



地域のボランティア 2～3名

サッカーをうまくなりたい

サッカー指導の経験豊かな
地域のボランティア



放課後子ども教室 甲西北中 石部中 日枝中



◇基礎・基本の学力補充
＊実際に授業で使うワークや
補助教材を持参

◇中学3年生の進路実現のための
学習会を校区施設で開設(石部中)

◇中学3年生で学力面の厳しい生徒
への夜の学習会を校区の市施設で
開設(日枝中)

対象:全学年
中学1年生 20名参加

担当:中学1年担任
(県費講師)
5月29日～16回開催
(27年度)

毎週 月曜、水曜、金曜
基本 16:00～17:00
最終 17:30

◇地域の英語ボランティア3名
を招いて、小学校外国語活動と
中学校の英語学習をつなぐ学び
の場としていく予定

放課後学習教室 甲西中 ※独自の取組



- ◇基礎・基本の反復学習
- ◇受験対策問題演習

※希望進路実現に向けて

- ◇個別学習ブースで自学
(教職員手作り)
- ◇教え合い学習が可能な
大テーブルで

対象: 中学3年生
参加: 平均10名
最大40名

担当: 甲西中教員

学校支援の
地域ボランティア2名

毎週 月～金曜 毎日

時間 16:15～17:00
期間: 9月下旬～3月上旬
全56回(26年度)

湖南省のめざすコミュニティ・スクールや 学校支援地域本部事業の姿

- ◇地域、学校、行政が「熟議」と「協働」で、どんな子どもを育てるのかを明確に。
 - ◇10年後、20年後の校区の担い手を育てるツールとして、コミュニティ・スクールや、学校支援地域本部事業がある。
 - ◇次代を担う、人と人との「豊かにつながる」地域をつくる。
 - ◇地域の子どもは、地域と学校が同じ目の高さで育てる意識を大切にする。急がずに、着実に。
- ※「学校は地域へ、地域は学校へ」



子どもに自尊感情が育つために

◇学習や仕事のめあてが明確である

◇めあてに向かう過程で「達成感」がある

◇「達成感」がある時に、ほめてくれる大人がいる

地域と協働する学校づくり
の充実へ

